

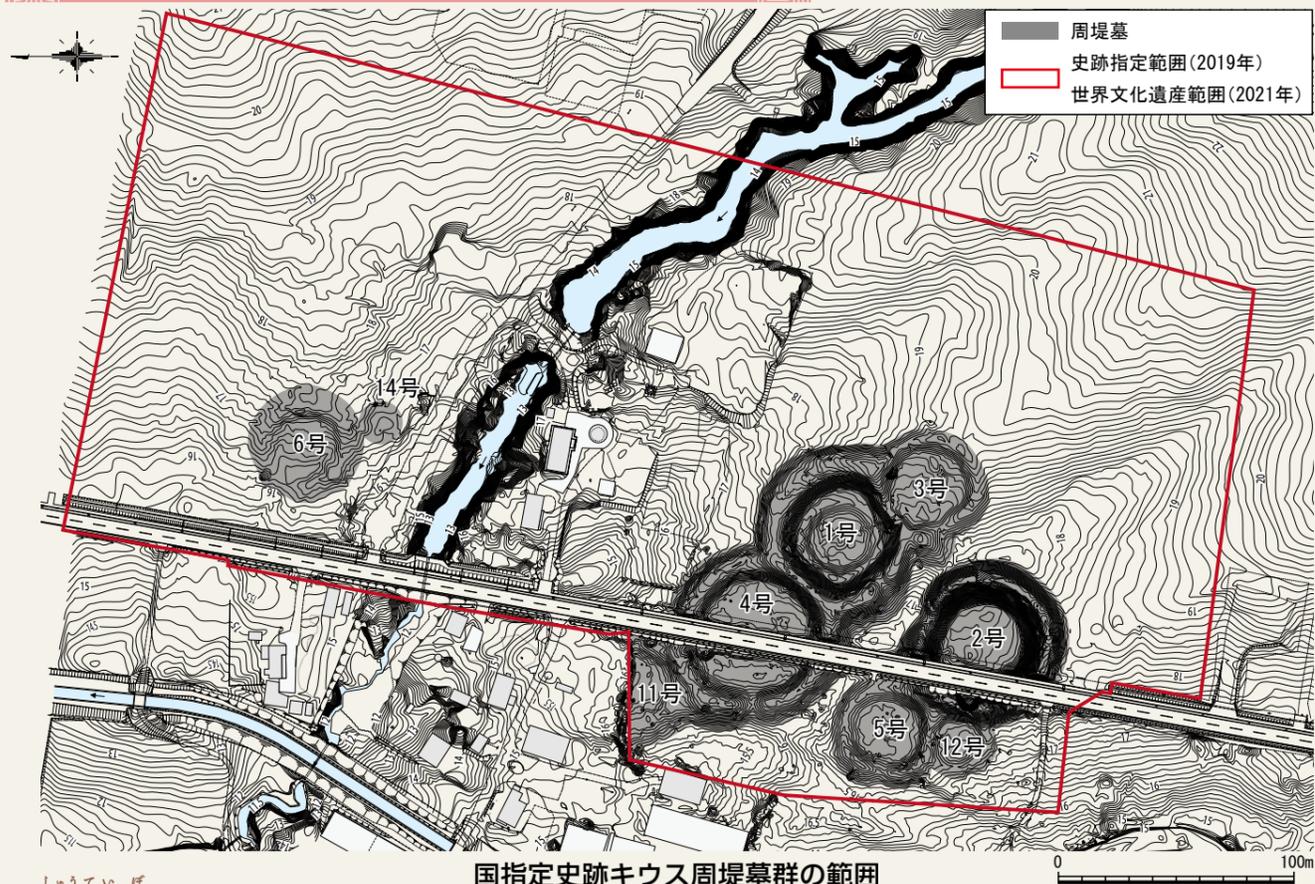
世界文化遺産

国指定史跡

キウス周堤墓群



キウス周堤墓群とは



国指定史跡キウス周堤墓群の範囲

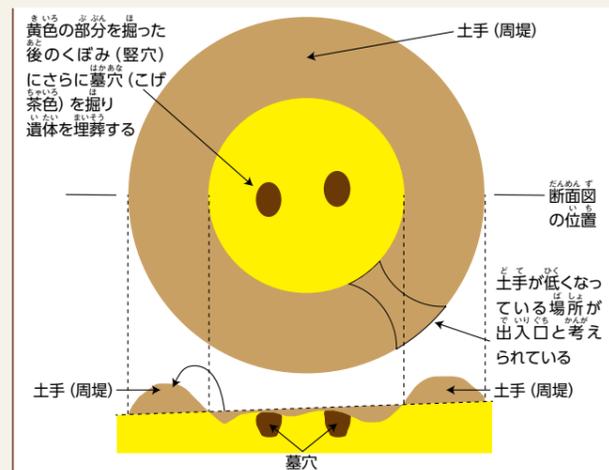
周堤墓とは？

縄文時代の終わりに近い頃（縄文時代後期後葉、約3200年前）、北海道では独特な集団墓が造られました。それは地面に円い大きな穴を掘り（堅穴）、その土で堅穴の周囲に土手を造り（周堤）、堅穴内や周堤上に1基～数十基の墓を設けたもので、「周堤墓」と呼ばれています。

周堤墓は、一部が道東と苫別市にあるほかは、大部分が恵庭市、千歳市、苫小牧市の石狩低地帯南部に集中して造られています。

周堤墓の大きさは一般的に10～30m程ですが、キウス周堤墓群では50mを超える大規模な周堤墓が群集し、現地表面からその形を見ることができなのが大きな特徴です。

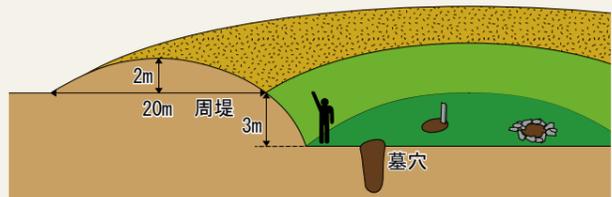
キウス周堤墓群は、1979年に国指定史跡となり、2019年には4.9haから10.9haに史跡の範囲が広がり、2021年には「北海道・北東北の縄文遺跡群」の構成資産の一つとして世界文化遺産に登録されました。



周堤墓の構造

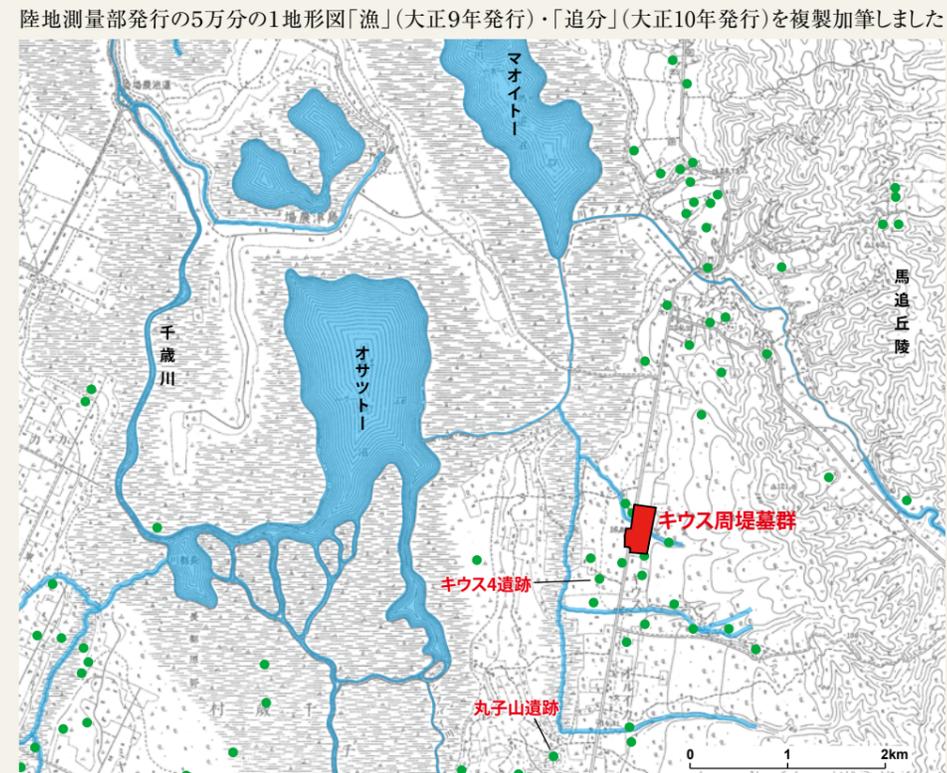


2号周堤墓の周堤断面 (1965年)



キウスのアイヌ語地名

アイヌ語の地名は、その土地の特徴を示して付けられています。北海道には今もその読み方をもとに付けられた地名が多く残っています。キウスとはアイヌ語の「キ・ウシ」（カヤ・群生するところ）という意味が由来とされていると考えられます。当時は眼前の湖沼や湿地の周辺に茅が広がっている風景だったのでしょう。



大正時代のキウス周堤墓群周辺の地図（●は遺跡を示しています）

キウス周辺の地形と遺跡

キウス周堤墓群は、石狩低地帯の南東にある馬追丘陵のすそ野部、標高15～21mの緩斜面に造られています。かつて台地の眼前は広大な湿地帯となっており、オサットー（長都沼）やマオイトー（馬追沼）が広がっていました。現在は干拓され、湖沼や湿地はほとんど残っていません。

丘陵のすそ野部周辺には、旧石器時代に始まる人々の生活の痕跡（遺跡）が数多く確認されています。また、周堤墓は高速道路千歳東IC部分にあるキウス4遺跡や南西へ2.4km離れた丸子山遺跡でも見つかり、発掘調査が行われています。

周堤墓研究の今

周堤墓は、古くから研究者たちの注目を集めてきました。ここでは、今も研究が進められている周堤墓の始まりについての学説を紹介します。

周堤墓は、北東北や北海道で縄文時代後期初頭に造られた環状列石に由来するとの指摘があります。環状列石が礫を円形に配置した大型の記念物で、墓穴や祭祀遺物を伴う点が周堤墓とよく似ているためです。一方、両者は造営時期の連続性や分布域の重なりが明確でなく、遺跡の立地傾向も異なることから、直接的な系譜関係は認められないとする指摘もあります。ほかにも、堅穴住居

をモデルとする説、群集墓の影響を受けて発生したとする説、気候の寒冷化により、集落が分散化した結果、周辺地域の人々や集落内の繋がり（団結）を強めるための共同作業として周堤墓を造り始めたとする説など、多様な見解があります。

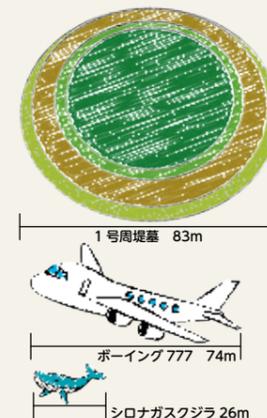
その後、縄文晩期になると、周堤墓は忽然と造られなくなります。なぜ終焉したのか、造営に携わった人々はどうなったのか、後期後葉の北海道という限られた期間と地域のなかで造られた周堤墓には、これらを含めまだまだたくさんの謎が残されています。

キウス周堤墓群、驚きの大きさ！

キウス周堤墓群のうち1号周堤墓は、周堤の最大径が約83mあり、地表面から分かる縄文時代のお墓の中で最大級の大きさを誇ります。

シロナガスクジラは全長26m、世界最大級の旅客機ボーイング777は全長74mですので、比べてみると1号周堤墓の大きさがよくわかります。

また、高さが最大なのは2号周堤墓で、堅穴床面から周堤上までが約5mあります。2号周堤墓を造るには約3,000m³の土を動かしたと計算されています。縄文時代の道具を使って土を掘って運んで積み上げた土の量を1人1日1m³だったとすると、25人で120日かかることとなります。



これまでの歩み

紀元前約1200年 キウス周堤墓群が造られる

紀元前約500年 樽前山の噴火により火山灰(Ta-c)被覆

1739年 樽前山の噴火により火山灰(Ta-a)被覆

1890年※ M23 周堤墓を通る由仁街道(現国道337号)が竣工

1901年 M34 河野常吉による現地調査

1917年 T6 河野常吉による現地調査[図①]、阿部正己による現地調査、松坂修吾による測量調査[図②]

1922年 T11 河野常吉による調査(聴き取り)

1930年 S5 「史蹟キウスノチャシ」として1~5号周堤墓が史蹟天然記念物保存法に基づき北海道庁より仮指定される(史跡面積:3.8ha) [写真③]

1950年 S25

1964年 S39 大場利夫・石川 徹による1号周堤墓の調査(5基の墓穴を確認) [写真⑤・⑥]、6~10号周堤墓認識・図示[図④]

1965年 S40 大場利夫・石川 徹による2号周堤の調査(1基の墓穴を確認、周堤の断面(前頁)を記録) [写真⑧・⑨]、4号周堤墓外縁部の墓穴の発見・調査(石棒出土) [写真⑦]

1968年 S43 大場らの調査成果をもとに「千歳キウス環状土籬群」として1~6号周堤墓が北海道文化財に指定される(史跡面積:41.615.05㎡)

1978年 S53 千歳市教育委員会と奈良国立文化財研究所による共同測量調査(11号・12号周堤墓を発見)

1979年 S54 キウス周堤墓群として1~6・11・12号周堤墓の範囲が国史跡に指定される(史跡面積:49,441.00㎡)

2009年 H21 千歳市がキウスの管理団体となる

2012年 H24 世界遺産暫定一覧表記載の「北海道・北東北を中心とした縄文遺跡群」に構成資産の一つとして追加登録される

2013年 2017年 H25~29 史跡周辺の詳細分布調査(14号周堤墓を発見) [写真⑩]、及び地形測量調査

2019年 R1 14号周堤墓を含めた範囲が国史跡に追加指定される(史跡面積:108,772.06㎡) 2019(R1).10.16

2020年 R2 「北海道・北東北の縄文遺跡群」の一つとして世界文化遺産登録の推薦書が国(文化庁)からユネスコへ提出される

2021年 R3 「北海道・北東北の縄文遺跡群」の一つとして世界文化遺産に登録される

2号周堤墓再発掘調査[写真⑪]、及び整備のための遺構確認調査

河野常吉さんをはじめ多くの研究者たちの訴えもあって、その後の度重なる史跡の指定・保護につながり、地域の人たちにも長く大事にされてきたんだ。これからも沢山の人の見てもらいながら大切に守っていかなくちゃね。



千歳市文化財キャラクター「ママチくん」

※「植民公報」より。「河野常吉ノート」の見取り図によれば1891年竣工。

- 調査に関すること
- 保存・指定に関すること

研究初期の1900年代前半、歴史家の河野常吉は、現地調査や聴き取り調査により、キウス周辺で見られる特殊な地形の見取り図(①)を残し、アイヌの「チャシ(砦)」として紹介しました。また、この頃には既にキウスに「チャシコツ」と記した標柱が現地に立てられていたようです。その後、1930年にキウス周堤墓群は「史蹟キウスノチャシ」として仮指定を受け(③)、長らくチャシとしての認識が主流となります。

常吉の息子である河野広道は、斜里町の朱円栗沢遺跡やキウス7号周堤墓の調査成果からこれらを縄文時代の墓と考え、「環状土籬」と呼びました。さらに、大場利夫と石川徹は1・2号周堤墓などの発掘調査(④~⑨)で墓穴を発見し、土層の堆積状態から縄文時代の集団墓と報告します。しかし、周堤墓のあまりの大きさから、縄文時代の

ものと広く認知されるまで時間がかかったようです。

その後、測量調査を経て1979年に一般の人にも理解しやすい名称を「周堤墓」と改め、国史跡に指定されました。

2013~2017年の詳細分布調査で新たに14号周堤墓(⑩)が発見され、2019年には国史跡の範囲が追加指定されました。そして2021年には「北海道・北東北の縄文遺跡群」の構成資産の一つとしてユネスコの世界文化遺産に登録されました。



⑤ 1号周堤墓調査のようす(1964)



⑥ 1号周堤墓内の墓穴から見つかった石柱(1964)



⑦ 4号周堤墓外縁部の墓穴に副葬されていた石棒(1965)



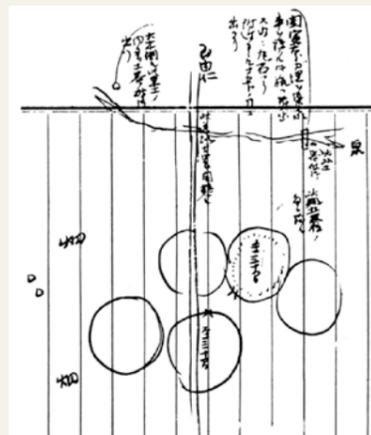
⑧ 2号周堤墓調査のようす(1965)



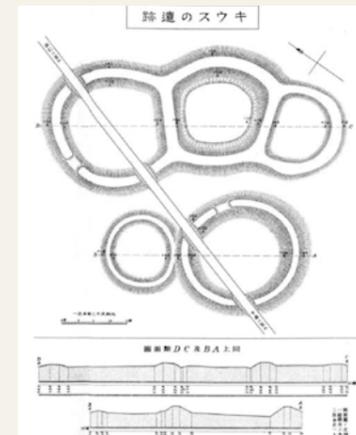
⑨ 2号周堤墓内の墓穴上面のようす(1965)



⑩ 地中に埋もれていた14号周堤墓(2017)



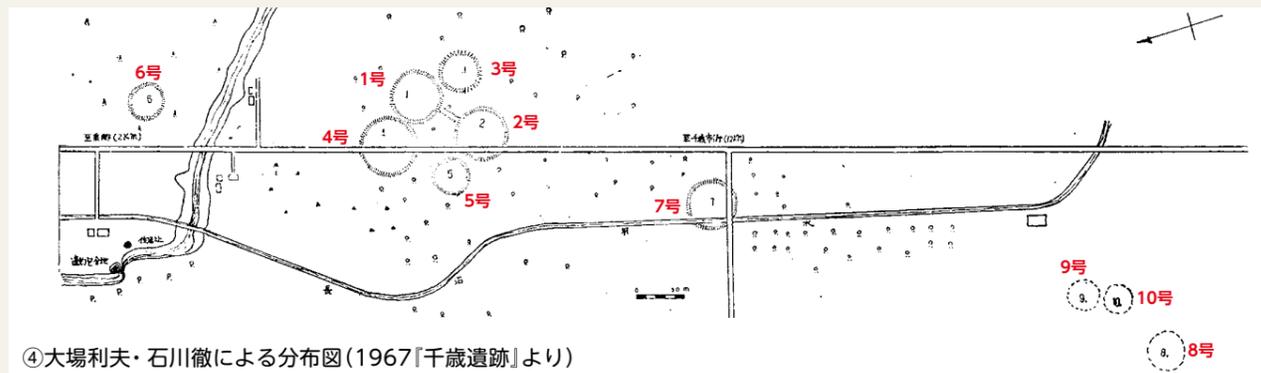
① 河野常吉による見取り図(後年出版された宇田川校注1981「河野常吉ノート」より)



② 松坂修吾による測量図(1918「北海道史附録地図」より)



③ 仮指定時に掲げられた看板(昭和5~9年撮影)



④ 大場利夫・石川徹による分布図(1967「千歳遺跡」より)

アイヌのチャシとする学説

縄文の集団墓とする学説

河野広道による7号周堤墓の調査(石柱のある1基のベンカラのまかれた墓穴を確認)

仮指定解除

7~10・13号周堤墓について

史跡に含まれていない周堤墓の番号について説明します。7号は上の図のとおり、史跡から300m南西に離れて現存しています。8・9・10号は発見当時から削平されていた周堤墓で、その後位置不明となってしまいました。また、史跡から約3km南に離れた13号は誤認と判明し、現在オリイカ1遺跡と名称が変わっています。

大解剖! キウス周堤墓群

1号周堤墓

外径はキウス周堤墓群の中で最大規模です。両脇は3・4号の形が保たれた状態で接しています。内側のくぼみは中心が盛り上がっています。



1号周堤墓の断面図

3号周堤墓

周堤は低いものの、中心の窪みがはっきりと分かります。



現在、キウス周堤墓群では9基の周堤墓が確認され、史跡に指定されています。周堤墓からは、造られた時期を示す土器や石器、土偶などの遺物が出土しました。また、墓穴からは石棒や墓標として立てられたと考えられる石柱も見つかっています。

土手状に盛り上がっている周堤には、一部低くなっている部分があります(青矢印部分)。この周堤の切れ目部分は、堅穴の中に入る際の出入口として造られたものと考えられています。

謎の高まり

1・3号が接する付近に謎めいた土の高まりがあります。この高まりは1号北側の周堤外周の延長線上に位置することから(赤い破線)、元々は1号の周堤だった可能性があります。

6・14号周堤墓

6号は周堤が低く、形が若干不明瞭です。14号は埋もれて形が分からない状態でしたが、近年の分布調査で見つかりました。現在は埋め戻されています。

両方とも私有地にあるため、見学できません。

4号周堤墓

内径がキウス周堤墓群の中では最大規模で、とても広く感じます。



造られた順番

隣接する周堤墓は、互いに周堤の一部を共有・重複しているため、土砂の堆積状況から造られた順番が推定されています。南側のグループは12号→5号→2号の順。中央のグループは1号を挟んで11号→4号→1号、3号→1号の順。北側のグループは14号→6号の順。いずれも、時期が下ると周堤墓の規模が大きくなるのが指摘されます。

周堤墓への道

2013～17年の詳細な地形測量により、周堤墓群の西側に接し、南北に延びる2列の平行した低い盛土とそれに挟まれた窪地が発見されました。その形状と4・5・12号の出入口がこの窪地に面している点から、この窪みは人為的な「道跡」と考えられます。500m南西側に離れたキウス4遺跡でも史跡キウス周堤墓群方面へ延びる同様の道跡が発見されていた

周堤墓番号	外径	内径	周堤の高さ*	周堤の幅
1号周堤墓	83	36	2.8	23.5
2号周堤墓	73	30	4.7	21.5
3号周堤墓	51	27	0.8	12.0
4号周堤墓	79	43	1.5	18.5
5号周堤墓	51	24	0.8	13.5
6号周堤墓	52	22	0.6	15.0
11号周堤墓	53	23	0.6	15.0
12号周堤墓	33	16	0.4	8.5
14号周堤墓	19	11	0.6	4.3

*周堤の高さは他の周堤と重複しない場所での天端とその直近のくぼみ(堅穴)下端との最も大きな比高差

ここでは主な周堤墓の見どころを記したので、縄文時代を思い浮かべながら実際に歩いて確かめてみてください。

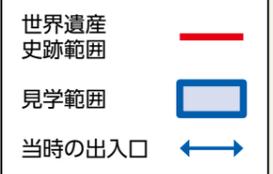


2号周堤墓

周堤の高さはキウス周堤墓群の中で最大規模です。中から見ると周堤の高さに圧倒されます。



2号周堤墓の断面図



キウス周堤墓群の出土遺物

写真の出土遺物は千歳市埋蔵文化財センターで展示しています。



1号周堤墓から出土した土器



2号周堤墓から出土した石皿



1・2号周堤墓から出土した
土器・石器・土偶



4号周堤墓外縁部の墓穴から出土した石棒
(市指定文化財)

キウス周堤墓へのアクセス

- 所在地 北海道千歳市中央2777 ほか
- ※JR千歳駅から10km 新千歳空港から12km
- ※道東自動車道千歳東ICから信号を左折し、長沼方面に400m進むと右側に駐車場があります
- ※公共交通機関はありません

埋蔵文化財センター展示室

- 所在地 〒066-0001 北海道千歳市^{おさつ}長都42-1
電話 0123-24-4210
- ※JR千歳駅から8km JR長都駅から5km
キウス周堤墓群から7km
- ※公共交通機関はありません
- 見学時間 9時から17時まで
- 休業日 土曜日・日曜日・祝日・年末年始(12/29~1/3)
※毎月第2日曜日は開室
- 入場料 無料



Twitter
公式アカウント



埋蔵文化財センター
ホームページ



表紙撮影：吉田 裕史洋

千歳市埋蔵文化財センター文化財普及啓発事業広報資料
令和4年5月31日発行 第3刷